

ID No.	2114
研究課題名	ピロリ菌感染による RNA スプライシング異常の解析
研究代表者	濱田 文彦 (大分大学・教授)
研究組織	
受入教員	古川 洋一 (東京大学医科学研究所・教授)
研究分担者	二宮 遼 (大分大学・助教) 井元 清哉 (東京大学医科学研究所・教授) 山口 喜世志 (東京大学医科学研究所・特任講師) 清水 英悟 (東京大学医科学研究所・学術支援専門職員)
研究報告書	
<p>1) <i>Helicobacter pylori</i> (ピロリ菌) のもつ発がん性毒素 CagA を薬剤誘導性に発現する胃粘膜上皮細胞株を樹立した。具体的には、PiggyBac Transposon Vector System および Tet-On System を用いることにより、doxycycline 存在下で V5-tagged CagA 遺伝子を発現するヒト胃粘膜上皮細胞株 AGS-Tet-on-V5-CagA を樹立した。Doxycycline による CagA の発現誘導は、Western blotting および免疫染色法によって確認した。</p> <p>2) CagA による胃粘膜上皮細胞における遺伝子発現、および transcript の splicing 変化を解析するために、親株の AGS および doxycycline 存在・非存在下の AGS-Tet-on-V5-CagA から RNA を抽出し、RNA sequencing を行った。</p> <p>3) RNA sequencing data から遺伝子発現および splicing の網羅的解析を行い、CagA によって発現が変化する遺伝子群を同定した。また Splicing の変化についてデータ解析を行い、候補遺伝子が得られた。今後さらに解析を進めていく予定である。</p>	